

『総義歯製作の客観的なガイドライン ～デジタルデンチャーとの融合～』

佐藤 幸司

超高齢社会を迎え高齢者歯科医療ニーズの動向も口腔ケアの充実が求められ、健康義歯の質的需要が高度化して来ています。また、歯科医療現場も高度に発達した歯科医療技術の進歩により、歯が喪失した無歯顎者の疾病構造も著しく変化してきていると思われます。義歯製作もより簡便で客観的な根拠により効率的な“二義的人工臓器義歯“の製作システムと供給体制が求められています。

そこで、静岡県歯科技工士会主催の生涯研修では、総義歯製作の客観的ガイドラインからデジタルデンチャーとの融合について考察予定です。また、義歯の咬合は無歯顎臨床で最も重要な要素であり、印象採得・咬合採得から得られた模型を分析し正確に咬合器装着を行い、客観的な人工歯排列と症例に応じた咬合付与について講演する予定です。

無歯顎補綴の仮想咬合平面の設定基準と患者固有の咬合彎曲は重要な要素であります。デジタル技工の時代に歯冠修復・インプラント補綴製作のガイドラインとして、咬合平面設定基準と咬合の付与となるガイドラインが重要であります。

解剖学・発生学・生理学から異なる臨床症例に対する咬合平面の設定と咬合彎曲の与え方について生理学的、力学的に考慮し適切な部位に人工歯排列を行い、筋組織と口腔内に調和した咬合と咬合様式の付与について考察します。

最後に有床義歯の展望とデジタルデンチャーについて考察し、時間の許す限り聴講して戴いた皆様と共に有意義な生涯研修になれば幸いです。